

C-11 皮膚科選択プログラム

概要

(1) 皮膚科選択プログラムは、選択科目として皮膚科を選択する場合のプログラムである。

(2) 選択期間中には指導医と相談の上、研修医一人ひとりが自分のキャリア育成に合致したSBOsを設定することができる。一方で、選択科研修中においても、中央病院プログラムが2年間で必要と定めた中央病院一般目標GIOならびに行動目標SBOs(EPOC)の達成度を上げる必要がある。

指導責任者：河上 真巳

目標

一般目標(皮膚科選択研修 GIO)

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、皮膚科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

行動目標(皮膚科選択研修 SBOs)

個人が決めるSBOs

診療科が薦めるSBOs

EPOCで定める目標

EPOC で定める目標

1. 皮膚科で必ず修得しなければならないEPOC項目(マトリクス表で)

A-4-14 創部消毒

A-4-15 簡単な切開・排膿

A-4-16 皮膚縫合法

A-4-17 軽度の外傷・熱傷

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

B-1-7 発疹

B-2-16 熱傷

B - 2 経験が求められる症状・病態

B-3-3 皮膚系

(1) 湿疹・皮膚炎群

(2) 蕁麻疹

(3) 薬疹

(4) 皮膚感染症

B-3-16 物理・化学的因子

(4) 熱傷

2. 皮膚科で修得するのが望ましいEPOC項目(マトリクス表で)

A-1 医療面接

A-2-1 全身観察

A-2-2 頭頸部の診察

A-3-3 血算・白血球分画

A-3-7 血液生化学検査

A-3-9 細菌学的検査・薬剤感受性検査

A-3-10 肺機能検査

A-4-13 局所麻酔法

- A-6-1 診療録作成
- A-6-2 処方箋、指示箋
- A-7-1 診療計画作成
- A-7-2 診療ガイドライン
- A-7-3 入退院適応判断
- A-7-4 QOL 考慮

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

- B-1-6 リンパ節腫脹

B - 2 経験が求められる症状・病態

- B-3-1 血液系
 - (4) 出血傾向・紫斑病
- B-3-16 物理・化学的因子
 - (3) 環境因子による疾患
- B-3-14 感染症
 - (1) ウイルス感染症
 - (2) 細菌感染症
 - (4) 真菌感染症
 - (5) 性感染症
 - (6) 寄生虫疾患

C 特定の医療現場の経験

- C-1 救急医療(救急医療の現場を経験すること)
 - (6) 専門医へのコンサルテーションができる

3. 全ての科で目標とする項目(マトリックス表では)

- I. 医療人として必要な基本姿勢・態度
 - (1) 患者-意思関係、(2) チーム医療、(3) 問題対応能力、
 - (4) 安全管理、(5) 症例呈示、(6) 医療の社会性

方略(LS)

指導医数
 同時研修は各学年 1 名を原則とする
 研修期間は 1 ヶ月
 場所は、外来、病棟、救急外来。
 オリエンテーション(約 3 時間)
 OJT(On the Job Training)が主体
 症例ごとに指導医とマンツーマンで研修する。

週間予定(月～金)

	午前	午後
月	外来	病棟診療、検査
火	外来	病棟診療または検査、手術
水	外来	外来
木	外来	病棟診療または検査、手術

金	外来	病棟診療または検査
---	----	-----------

評価(EV)

形成的評価(フィードバック) 随時

総括的評価 終了時に EPOC の評価入力を行う。

また mini-Peer Assessment Tool (mini-PAT) に評価を記載し、プログラム責任者に報告する。